



くろだせいき ばら
黒田清輝 《薔薇の花》

くろだせいき (1866-1924)
鹿児島で生まれた。18歳のとき、法律を勉強するためにフランスへ留学したが、絵が上手なため友人のすすめで画家に転身した。印象派風の明るい技法を身につけ27歳で帰国、日本にいる画家たちに大きな影響を与えた。白馬会や光風会といった美術団体をつくったり、美術学校の教授をつとめるなど、日本の洋画発展のために努力し、大きな足跡を残した。うさが言うように、技あり級の作品です。

これは
ふつうのバラに
見えるけど。



ケツ。

わかってまへんな。この絵の良さが。これがプロっていうもんですよ。ええか。もし、あんたがおんなじバラをこんなちっちゃな画面に描いたとするとやなあ。そらあこじんまりした絵になりますわ。よう見てみ。バラと花びんが画面からはみだしてるやろ。これが迫力の秘けつになってるんやわ。でもな、僕らがまねしてもな、この、なんていうかな、バラと花びんの「重さ」っていうのがうまく出せやん。それとな、絵具のビミョーな乾き具合をみながらすばやく描いてる。十年やそこら練習してもこんなの無理っ。

そしてこの作品！



すちやつ！

さかもとはんじろう (1882-1968)
福岡の久留米で生まれた。18歳のとき、小学校の同級生だった、これまた有名な画家・青木繁に伴われて東京に行き絵の勉強をした。印象派のような明るい色彩が坂本さんの絵の特色ですが、ごく身近な、ふつうの人だと描かないようなものを気持ちを込めて描いたので、奥の深いいつまでも飽きのこない絵になっていますが、あんたはどう思う？

ただの箱やと思たら痛い目にあうで。ほんまにただの箱やからな。こんなもんちよつとした大金持ちの家に行ったらゴロゴロしてるけど、絵にしたいなんか、誰が考えるう？ やってしもたんや。坂本はんが。それにな、じーっと見たら箱がにんげんになって話しかけてくるような感じさせへんか？
・・・せんのや。あんた。わるかったわ。強引で・・・。



坂本繁二郎 《箱》